

時は十五世紀、  
 混乱の時代を駆け抜けた  
 一人の英雄がいた。  
 その名は阿麻あま和利わり。

勝連グスクは、琉球王国が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力按司、阿麻和利が住んでいた城です。勝連グスクにおける発掘調査では、中国製の陶磁器類が多量に出土しており、阿麻和利をはじめとする歴代の城主が、海外との交易を活発に行っていたことが推測されます。これらの出土品から、勝連グスクは13世紀前後に築城されたものと考えられています。

口碑伝承では、初代城主は英祖王系・大成王の五男であったといわれています。2～5代目まで勝連按司が続き、6代目に世継ぎができないことから養子縁組により伊波グスクの伊波按司の六男が迎えられています。続く7、8代目は交代の理由は判りませんが浜川按司になっています。そして9代目は茂知附按司となります。しかしこの按司は圧政を敷き酒に溺れたことから、人々の信頼の厚い阿麻和利によって倒されます。彼が10代目の城主となって、勝連はますます栄えることとなったとあります。

阿麻和利については諸説ありますが、一説によると北谷間切屋良(嘉手納町)で生まれ、小さい頃は身体が弱く、山に捨てられたといわれています。ひとりで生きていく中で、知恵と力を付け、勝連に流れ着いたときには、村人たちに漁網をつくったりして、慕われるようになりました。やがて茂知附按司から勝連の按司の座を奪い取ったといわれています。若くして勝連の按司となった阿麻和利は、人々から慕われ、海外貿易によってますます力を付けました。時の琉球国王尚泰久は、阿麻和利に脅威を持ち、自分の娘である百度踏揚ももとふみあがりを嫁がせました。阿麻和利は、国王の重臣で中城に居住した護佐丸を1458年に滅ぼし、さらに王権奪取をめざして国王の居城である首里城を攻めましたが、大敗してその生涯を閉じることとなりました。阿麻和利が滅ぼされたことによって、首里城を中心とする王権はいちだんと安定していきました。

世界遺産  
 国指定史跡

# 勝連城跡

世界遺産

World Heritage Katsuren Castle Site



那覇空港から約60分  
 勝連城跡前  
 【沖縄バス52番と勝線、61番前原線】

## あまわりパーク料金表 6歳未満無料/うるま市内小中学生無料

勝連城跡 (常設展示含む)	大人 (高校生以上)	個人	600円
		団体(20人以上)	480円
	小人 (中学生以下)	個人	400円
		団体(20人以上)	320円
常設 展示室	大人(高校生以上)	400円	
	小人(中学生以下)	200円	

## 勝連城跡有料ガイドのご案内

「うるま市文化財ガイドの会」による、勝連城跡有料ガイドを実施しています(予約制)。2名以上からご利用いただけますのでご希望の方はお問い合わせの上ご予約ください。

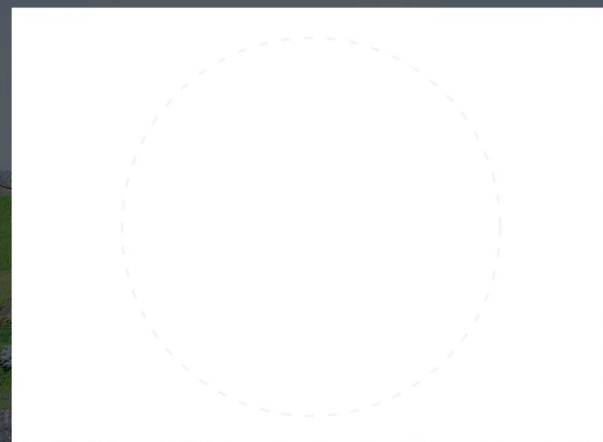
参加人数	勝連城跡ガイド料金
2名～20名	お一人様:2,000円
21名～30名	お一人様:1,500円
31名～	お一人様:1,000円

**ご利用時間** 9:00～18:00 (年中無休)  
 ※最終券売は閉館30分前まで  
 ※営業時間外、臨時休場の場合はご利用できません。

**お問い合わせ** あまわりパーク管理事務所  
 〒904-2311 沖縄県うるま市勝連南風原3807-2  
 TEL/098-978-2033 FAX/098-978-2011

**あまわりパーク内観光案内所**  
 〒904-2311 沖縄県うるま市勝連南風原3807-2  
 TEL/098-978-7373

観光情報は  
 コチラ▶



かつれんわ なおにきや  
 たとゑる やまどの  
 かまくらに たとゑる  
 さむたかわ なおにきや

「おもろそうし」十六巻一四四

(大意)勝連(肝高)は、何にたとえよう。大和の鎌倉にたとえよう。  
 \*諸外国との海外貿易を通して繁栄していた勝連の様子を日本本土の鎌倉にたとえたオモロ。



百度踏揚

阿麻和利